科目ナンバリング	U-LAS70 10001 SJ50						
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー ：科学的宇宙観の変遷 ILAS Seminar :Evolution of Scientific Cosmology			担当者所属 職名・氏名	理学研究科　教授　　太田　耕司		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・ 開講期	2024・前期	受講定員 (1回生定員)	6 (6) 人	配当学年	１回生	対象学生	全学向
曜時限	月5	教室	理学部4号館416室 (北部構内)			使用言語	日本語
キーワード	天文学						

[授業の概要・目的]

宇宙観（あるいは世界観）は、人類の精神的バックボーンとなる非常に重要なものであると言ってよいだろう。本ゼミでは、その歴史・変遷について調べていきたい。
約2000年前に作られた天動説は、観察に基づくそれなりによくできたものであった。それはどのようなものであったのか？また、昔の人はどのようにしてそのような宇宙観を持つに至ったのだろうか？
1543年には地動説が提唱されたが、何故地動説が提唱されたのだろうか？コペルニクスの地動説はある意味コペルニクス的転回ではなかったせいか評判がよくなかったという側面もあるようである。何故だろうか？
やがて恒星天という概念がなくなり星の世界の描像が確立されてきた。この過程にはどんな発見があったのだろうか？
20世紀になって銀河という概念が確立され宇宙観は非常に大きく広がった。その成立過程はどうだったのだろうか？
等といった視点を各自で設定しそれについて調べる。パラダイムシフトに潜むものの考え方・アプローチには現在の我々の常識からは想像もつかない要因がある場合もある。目から鱗的なものがあると期待され、これを経験できればというのが目標である。なお、担当者は天文学の研究者ではあるが、その歴史や科学史の専門家ではないので、自分でテーマを設定して自分で勉強する「対話を根幹とした自学自習」的ゼミを目指す。

[到達目標]

自ら問題を設定して調べるという、自得自発あるいは自学自習の実践体験になる。
現在の視点から整理しなおされた常識が、発見当時には全く違う発想で発見されているようなケースに遭遇することにより、ものの見方の相対化の重要性を実感できる。

[授業計画と内容]

本ゼミナールでは、受講生各自で課題を決めて、それについて調べ、ゼミで発表するという形で行う。
第１回は、ゼミの目標・進め方を説明した後、科学的宇宙観の変遷について簡単に紹介し、課題設定の参考にする。
第２回は、課題設定の内容やその調べ方等についての相談等に充てる。
第３回ー14回は、受講生の発表に充てる。
発表は一人2回程になる予定である。また１コマで二人が発表することもあり得る。発表しない回でも、素朴な質問や「対話」等を通じてゼミに積極的に参加することが期待される。
第15回では、全員の発表の総括や将来への展望などあれば議論する。また発表が途中になっている人がいればこの回でも続きの発表に充てる。

ILASセミナー ：科学的宇宙観の変遷(2)へ続く↓↓↓

ILASセミナー ：科学的宇宙観の変遷(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

ゼミでの発表（必須：70%程度）と参加時の積極性（30%程度）に基づいて評価する。

[教科書]

特に指定しない。各自で探す。課題によっては、ある程度の文献は紹介できる。

[参考書等]

（参考書）
教科書と同じ。

[授業外学修（予習・復習）等]

自分で調べる内容を決めて、それについて調べるというスタイルであるので、この意味で予習が主体となる。

[その他（オフィスアワー等）]